

## 再 評 価 書

箇所名	林道三和片川線	事業名	林道事業	課 名	治山林道課
事業概要	工 期	昭和49年～令和19年	全体事業費	8,535百万円(負担率：国50%：県50%)	
	(下段前回) ※1	昭和49年～令和9年	(下段前回)	7,635百万円(負担率：国50%：県50%)	
事 業 目 的 及 び 内 容					
<p>(1) 所在地 熊野市紀和町和気地内の県道小船紀宝線を起点とし、同町小栗須地内の国道311号を終点とします。</p> <p>(2) 事業の目的 路網が未整備な熊野市紀和町南東部の広大な森林において骨格となる林道として、森林の適正管理と森林資源の有効利用を図るとともに、布引の滝など森林や自然を活かした観光資源へのアクセス道路として地域振興を図ることを目的とします。</p> <p>(3) 全体計画            ① 延長 : 32,260m            ② 幅員 : 5m (天瀬～楊枝川区間は平成14年度から4mに縮減)            ③ 事業費 : 8,535,031千円 (265千円/m)            ④ 事業期間 : 昭和49年度～令和19年度 (64年間)</p> <p>(4) 全体計画の変更内容            全体計画について、事業費を8,535百万円(900百万円増)へ、計画期間を昭和49年から令和19年度(10年延長)への変更を予定しています。            ・物価上昇 404百万円            ・残土処理工 206百万円(岩石破碎工、転圧工)            ・法枠工 231百万円            ・転石破碎工 59百万円  <hr style="width: 50%; margin-left: 0;"/>           合計 900百万円</p> <p>(5) 利用区域の森林資源等の状況            当該路線の利用区域面積は2,496ha、このうち人工林1,520haで、人工林率は61%です。人工林面積の93%が利用可能な41年生以上となっており、豊富な森林資源が利用時期を迎えています。</p>					
事 業 主 体 の 再 評 価 結 果					
<p>1 再評価を行った理由 平成30年度に再評価を実施後、一定期間(5年)が経過し、事業継続中であるため、三重県公共事業再評価実施要綱第2条(3)に基づき再評価を行いました。</p>					

## 2 事業の進捗状況と今後の見込み

### (1) 事業着手

昭和49年度に布引工区で工事着手しました。早期の完成を図るため、天瀬工区・楊枝川工区・小栗須工区と順次工区を拡大し、令和5年度は布引工区、楊枝川工区、小栗須工区の3工区で工事を実施しています。

### (2) 進捗状況（令和4年度末の事業量）

- ① 開設延長 : 24,718m (進捗率 76.6%)
- ② 事業費 : 6,288百万円 (進捗率 73.6%)

### (3) 今後の見込み

布引工区から小栗須工区間は令和8年度の開通を目標としています。  
天瀬工区から楊枝川工区間は令和19年度の開通を目標としています。

### (4) 利用区域内の森林整備状況

	R5 調査時点		
	整備面積	うち主伐	うち間伐
H29までの実績	1,017 ha	98.5 ha	757.1 ha
H30~R4の実績	73 ha	0.3 ha	64.9 ha

### (5) その他利用区域内の状況

三重くまの森林組合や森林所有者などにより、これまで約14,400mの作業道等が開設され、間伐等の森林整備や木材生産が実施されました。

## 3 事業を巡る社会経済情勢等の変化

### (1) 周辺環境の変化

- ①熊野市は、平成17年11月1日に熊野市と紀和町が合併しました。
- ②熊野市では、平成20年度に第1次総合計画を、平成30年度には第2次総合計画を樹立し、重点施策として「森林の価値を高めた持続可能な林業・木材産業の振興」のほか、施策Ⅰ「森林・林業でかがやきを増す人づくり」、施策Ⅱ「災害に強い森林づくりと環境林の保全」の3つの施策を掲げており、森林の適正管理、林道・作業道の路網整備や林業後継者の育成などに取り組んでいます。
- ③平成24年4月に広域合併した三重くまの森林組合が、地域林業の中核的担い手として、行政機関や関係業界などと一体となって、地域の森林整備と保全を進めています。
- ④林業作業については、高性能機械（プロセッサ、グラップル及びフォワーダー）が普及し、機械作業による造材や集材の効率化が進んでいます。

#### 4 事業採択時の費用対効果分析の要因の変化、地元意向の変化等

##### 4-1 費用対効果分析

###### ① 前回評価時の費用対効果分析の結果 ※2

前回評価時 (H30年度)	
B (便益)	15,993 百万円
C (費用)	15,834 百万円
B/C	1.01

###### ② 費用対効果分析の結果 ※3

今回評価	
B (便益)	21,752 百万円
C (費用)	18,959 百万円
B/C	1.15

###### ③ 感度分析の結果 ※4

今回評価	
B (便益) の下振れ (-10%)	20,932 百万円
C (費用) の下振れ (+10%)	20,855 百万円
B/C	1.00

(林野公共事業における事業評価マニュアル (令和5年4月))

##### 4-2 その他の効果

「布引の滝」など森林や自然に市民がふれあう機会増進のための短縮路として、また災害発生時には県道熊野川紀和線の迂回路として期待されます。

##### 4-3 地元意向

熊野市では、林業振興や森林の適正管理を促進するとともに、自然豊かな観光資源へのアクセスや生活道、また避難道路としての役割もあることから事業継続を強く望んでいます。

#### 5 コスト削減の可能性や代替案立案の可能性

##### 5-1 コスト削減

波形線形の採用、用途に応じた幅員や路肩の削減を行うことで、土工量と法面保護工を減らすなどによりコスト削減を図ります。

##### 5-2 代替案

当路線の利用区域内の森林整備を図る必要があること、更には観光資源への集客や地域住民の迂回路として地域振興に資することから、当林道を開設する以外に代替案はありません。

<b>再 評 価 の 経 緯</b>
<p>《平成30年度再評価時の委員会の意見》</p> <p>「事業継続の妥当性が認められたことから、事業継続を了承する。事業が長期に渡っていることから、早期の事業完成に努めるとともに、事業効果の十分な発現のために、森林整備・林業振興を目的とした施策をさらに推進されたい。」</p>
<b>事 業 主 体 の 対 応 方 針</b>
<p>三重県公共事業再評価実施要綱第3条の視点を踏まえて再評価を行った結果、同要綱第5条第1項に該当すると判断されるため、一層のコスト縮減と環境配慮を行い、関係する市町や地元関係者との連携を図りながら事業を継続し、早期完成を目指したいと考えています。</p>
<b>委員会意見の概要【事業方針作成時に記述】</b>
<p>事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。 事業が長期に渡っていることから、事業効果の早期発現のため、森林整備・林業振興のみならず、地域振興と公益的機能発現も視野に入れて早期完成に努められたい。</p>
<b>対応方針【事業方針作成時に記述】</b>
<p>再評価において事業継続の妥当性が確認されたことから、事業効果の早期発現に向けて事業を継続して実施していきます。</p>
<b>事業方針の概要【事業方針作成時に記述】</b>
<p>今後詳細な測量設計を実施していく中で、経済的な線形や工法について検討するなど、コスト縮減に努めるとともに、事業予算の重点的な配分により事業の早期完成を図ります。 また、市町や林業事業体と連携した路網整備の推進により、「林業振興」や「森林整備による公益的機能の発現」を図るとともに、集落間や観光・集客施設等へのアクセス向上を図ることにより地域振興に配慮しながら、効果的・効率的な事業推進に努めてまいります。</p>

※1 再評価実施事業は(下段前回)とし、前回再評価時の内容を記載する。未実施の場合は(下段当初)とし、当初計画時の内容を記載する。

※2 再評価実施事業は、前回再評価時の内容を記載する。未実施の場合は、当初計画時の内容を記載する。

※3 当該事業を所管する省庁の費用便益分析手法に従い費用対効果分析の結果を記載する。

※4 当該事業を所管する省庁の費用便益分析手法に従い感度分析の結果を記載する。